

櫻本千恵子 副院長 麻酔科部長にきく

Dr's message

“安心して麻酔をうけてほしい”



先生は救急担当ですが、2009年度は前年度に比べて受け入れ患者数が10%ほど増えています。

櫻本 当直の先生方には、夜間不眠不休で積極的に救急診療に取り組んでいただいています。救急車の受け入れも増えています。最近ほとんど「○」(受け入れOKのサイン)になっていますね。

一般的に専門医がいなくて断るケースが問題になっていたりしますが、櫻本 世の中の生活が夜型になってるので昼間と変わら

ない病気やケガが発生します。患者さんが直接来院される場合は、まず病院へ問い合わせからいらして欲しいですね。医師の側も「専門でないけれどもかまわないかどうか」などをきちんと説明し、できないことはできないとはっきり話すべきです。

納得していただいた上での診療が大事というところですか。ところで麻酔科を専門にされた理由は?

櫻本 全身の管理ができること。対象は老若男女問わず広いこと。多様性やスピード感

向いていたのはどういったところですか。

櫻本 麻酔科は守備範囲が広いので、手術麻酔、ペインクリニック、救急・集中治療、緩和ケアなどから、自分のライフスタイルに合った分野を選択できます。私は欲ばりなのでいろいろ手を広げています。

麻酔というものは患者からみていると、どれも同じように見えます。

櫻本 一人一人全くちがいます。手術麻酔では術後の回復にも影響があります。手術前の診察をしっかり行い、それぞれの患者さんに合わせた麻酔の計画を立てて、痛みが無く、すみやかに、安全な麻酔を行っています。患者さんの人生の中にある「手術」という濃密な一瞬。その一瞬に全力をかけて関わり、うまくいくと、うれしいですね。

麻酔科医をひと言でいうと、櫻本 痛みをとる専門医です。かつて痛みがまんするものでした。いまや痛みはとれるものになってきています。救急外来でも患者さんは痛いから見えになる。痛みをとれば初期の目的は果たすことになります。



とくに、末期がんの痛みがとれば人生の最後を輝かせることができる。

櫻本 薬をうまく調節することで痛みや不快な症状をコントロールできます。当院の緩和ケア病棟の医師、看護師のチームはよく勉強しているし、経験も豊富ですよ。

趣味はなんですか。

櫻本 うーん。仕事かなあ。どうしてもそんなに頑張るといわれますが、頭の下がる先生がたくさんいらつしやるから、ここで頑張れる。そばにいて共同作業をやっていくのが麻酔科ですから、医師をはじめ、一緒に働きたいと思える仲間がいるからこそ、楽しく仕事ができるのです。

ある市民団体が市民病院に関して実施したアンケート結果を見る機会があった。配布数1100、回答数810。これだけの規模の調査は病院にとつてもありがたく、同会のご労苦に厚くお礼を申し上げたい。

「町田市民病院にかかつて不満だった点は？」の質問で断トツの回答は「待ち時間の長さ」であった。より一層の対策が必要だと痛感させられた。

根本的には医師の増員が必要であり、懸命に努力はしているものの、直ちに解決するのは難しい。4つの方策があると思う。

1つはあと何番、何分待つのか情報をくわしく表示すること。

1つは待っている間、快適に過ごせること。

1つは医師をサポーターする体制を強化すること。

最後は言葉である。諏訪中央病院名誉院長、鎌田實さんは「言葉で治療する」(朝日新聞出版)を出している。ねぎらいの言葉で、病状が軽くなることはあり得る。

(四方 洋)

四季折々
* いしきおりおり *

「高度医療機器共同利用を開始しました」

CT・MR高度医療機器の共同利用について地域医療機関を受診された患者様を対象に3月より土曜日検査を開始します。

【対象】

地域医療機関からの紹介患者様



【時間】

第2第4土曜日
午前8時40分から正午まで

【検査予定件数】

単純CT 10件
単純MR 5件

「第7回町田シンポジウムを開催しました」

2月13日(土)に市民病院3階講義室において開催しました。町田シンポジウムは院内の各部門が、日頃の研究成果を一年に1回発表する場で、今回で7回目を迎えました。



今回は、「市民に信頼される安全な医療の実現」というテーマのもと、医師、看護師、医療技術、事務から、合計で19の研究成果が発表されました。

町田市民病院ってどういう病院？

病院には栄養士がいて、日々の食事を提供していることを知っている方は大勢いらっしゃると思いますが、ほかにどんな仕事をしているのかご存知でしょうか。

病院栄養科は臨床を勉強し、

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を行う管理栄養士と、献立や給食管理を行う栄養士、調理を行う調理師で構成されています。

栄養科では常に患者様個々の病気の状態や、食事をする力に合わせた食事の提供に努めています。又病院の食事という限られた環境の中でも、食事を通して患者様の病院における生活の質の向上に努力しています。

人員構成は栄養科長、2名の職員、1名のパート職員で全員が管理栄養士です。調理部門は委

託職員30名が頑張っております。

多くの患者様にとって、食事は入院生活において大きな楽しみのひとつです。それだけに食事に対して多くの要望があります。そうした患者様から、食事の不満やご意見、また、食欲がなく食事が進まない患者様の情報を得たときは、管理栄養士がすぐに患者様の所に伺い、話を聞いたたり実際に食事をされるのを拝見して、味や食形態の工夫、ときには栄養補助食品を考えた積極的に対応しております。

当院の患者給食は85種類で、大まかには一般食と特別治療食、産後食に分けられます。一般食は患者様の年齢や性別、体格等によって食事が決定されます。特別治療食は各々の疾病治療の直接手段として、病状に対応した食事が提供されます。産後食は出産後に提供される食事です。



栄養科では平成16年より、患者サービスの 일환として一般食、産後食を召し上がっている患者様に、週3回、水木金曜日の朝夕の食事を2種類のメニューから選べる「選択食サービス」を行っており、大変好評です。

朝食はご飯コースとパンコース、夕食はメインディッシュに肉料理と魚料理を用意し、好きなメニューを選んでいただきますので、残菜も少なくなりました。

また、産科の出産祝いとして、入院中1回「出産お祝い膳」を提供しております。さらに飲み込むことや嘔むことに障害のある患者様に、摂食・嚥下障害リスクマネジメントプロジェクトチーム(看護師、管理栄養士、理学療法士)の考案した「段階的嚥下訓練食・5段階」を用いて、訓練しながら口から食べることにのアプローチを行っております。

管理栄養士は日々、医師、看護師、その他の医療従事者と共同して患者様の身長体重、血液検査、病態等からおよその栄養

しかし患者様の中には、栄養摂取がままならず低栄養状態が続き、合併症を併発したり寝たきりになったり、状態が良くならないケースがあります。こういった患者様には「栄養サポートチーム」が介入し栄養療法の検討を行います。

「栄養サポートチーム」とは栄養療法に関する専門知識、技術を持った医療従事者がチームを組み、適切な栄養療法を展開し栄養状態の改善を図り、患者様の状態を良くする目的を持って活動しているチームです。

(栄養科長 吉川) 次号につづきます

状態を評価し、栄養管理を行っております。電子カルテになって患者様の食事摂取状況が把握できるようになり、摂取エネルギーの過不足が具体的に分かるようになってきたことは、迅速に栄養管理を行ううえで大きな成果であると言えます。



▲朝食の選択メニュー例

連載 5 栄養科はなにをするところ？

教えて 看護師さん

Vol.5



ナースマン紹介!

日本国内で働いている看護師の約5%が男性看護師です。町田市民病院でも、400名近くいる看護師のうち13名が男性看護師です。え？そんな人たち見たことない？今回は、そんな希少人数(?)の男性看護師(ナースマン)たちにいくつかの質問に答えてもらいました。

—「戴帽式はどうしていましたが私の行った学校では、帽子を載せる代わりに胸にハンカチを入れてもらいました。(H)

—「女性はナースキャップを被りましたが、男性は中華のコックさんのようなキャップを被りました。(T)

—「看護師になった動機を聞かせてください」

人と接する仕事がしたいと思っていました。姉がみんな看護師

というのも影響したのかもしれませんが。(F)

まだまだ少ない職業なので、興味がありました。(M)

男でも女でも病気で病んでいる人の手助けが出来れば・と思いい。(T)

—「患者さんの反応は」

男性看護師の援助を嫌がる患者さんいますが、患者さんにとって必要な事を、心を込めて行うことで良い関係を築き、男性も女性も同じ看護師であると思ってもらえればうれしいです。(F)

やっぱり、看護師=女性のイメージが強いから、最初「えっ?」って顔をされる方が多いです。最近はドラマでも必ず1人はナースマンがでていたので、少しずつ認知度は高くなってきていると思います。(H)

お年を召した女性の患者様には良くモテます。(N)

男性看護師の数が少ないので、珍しがられ話し掛けられることが多いです。(T)

—「女性が多い職種ですが、意識しますか?」

看護師という職業は、女性が大半を占めています。学生時代から女性

の中で生活しているのでも、ともに働く仲間という感じです。スタッフのほとんどが女性で大変な部分もありますが、女性ならではの繊細さとやさしさなどは、いつも勉強させてもらっています。(F)

女性看護師、男性看護師、それぞれの良さを活かし、協力して看護できたらいいと思います。(M)

でも、本音を言ってしまうと、女性はみんな強いですね。実は、凄く気を遣うので大変なんですよ。(笑)(T)

—「困ること、やりにくいことはありませんか?」

医師と間違われることが多く、患者さんから先生と呼ばれることが困ります。(T)

—「男だから困る事・男だからやりにくい」っていうのは特に無いですね。例えば、女性患者さんの介助で「これは患者さんが嫌だろ?」と思う時は、患者さんとうとうしたいか相談したり、他の女性スタッフに介助を代わってもらおう等して対処できますし、むしろ周りのスタッフの方が困っているかもしれませんね。(H)

仕事としてプロ意識を持ちながら行うことで、いつの間にかやりにくいといった感覚はなくなりました。(N)



—「ナースマンとして心がけている事は?」

仕事の内容上「優しさ」とかが求められるますよね。どうしても女性の方が「ソフト」だし「繊細」なので、そのへんを意識して「がさつ」にならないように気をつけています。(H)

女性患者さんの診察時、男性医師と男性看護師のみで対応しないよう注意しています。(T)

—「ナースマンで良かった事は?」

最初「エッ、男性!」って思われても、そこから「あんたで良かったよ」って言ってもらった時。(H)

男性だからこそ、患者にできる事を常に考えています。患者さんから学ぶことが多いですね。(M)

いかがでしたか?これからもナースマンを応援して下さい。

*「ナースマン」について
本来「ナース(nurse)」は性別のない呼称です。「ナースマン」はある番組の造語だそうです。





はぎの耳鼻咽喉科院長

萩野 仁志 さん

vol.1.5
Essay エッセイ

「医療と音楽活動」

1994年の5月に玉川学園で開業して以来、地域医療と共に、音楽を通じて社会と関わりを持つようになった。きっかけは音大で父が前任を務めた音声学の講師を引き受ける事になったことである。父がバリトン歌手で医師という変わり種で、少なからず父の影響を受けながら耳鼻咽喉科の中で、「声」に係る分野を発展させて来た。患者として出会った、バリトン歌手の後野仁彦氏と二人三脚で歌手の発声法と医学的な係りを探求し、それを音大の授業で講義した。いつしかそれがまとまり、音楽之友社から、「発声のメカニズム」を出版し、それが専門書としてのベストセラーになると、リットーミュージック社からポップス向けの本の執筆を依頼された。ジャズシンガーの多田鏡子さんを出版社から紹介され、ポップスの歌唱について多田さんから学び、彼女のライブに出向き、共著で「ボーカルの悩みを解消する本」を出版した。彼女のジャズボーカルと、そのバックバンドの素晴らしさに感動し、自分もピアノを弾けるので彼女と医師会の新年会で彼女のご主人の多田文信氏と、自分のバンドメンバーである有吉拓君と共に出演する機会を得た。そこで市民病院のスタッフの方と出会いこの紙面を任された訳である。大学でバンド活動をしていたが、30年ぶりに最近活動を再開した。音楽療法にも興味があり、ヴァイオリン奏者との共演で作った音楽CDは癒しをテーマとした。5曲収録したが例えば「私のお気に入り」を「補中益気湯」とイメージして編曲し、漢方薬の解説も加え、5曲聴くことにより、音楽で癒され漢方も5剤を知ることができるCDとなっている。思いつくままに生きてきたが、この先どんな展開になるのか自分にも全く想像がつかない。いつも基本に「人を癒す仁という心構え」を忘れずに医療も音楽活動も発展させて行きたい。親に貰った名前に恥じない人生を送って行きたい。

(文中のCDに関しては、「はぎの耳鼻咽喉科」へお問い合わせ下さい)

萩野仁志(はぎの ひとし)
 はぎの耳鼻咽喉科院長 東海大学医学部非常勤講師(音声外来担当)愛知県立芸術大学非常勤講師(音声学)ピアニスト(「はぐどばん」バンドリーダー)町田市在住

編集後記

「四季折々」のコラムで紹介したアンケート調査では「同じ病気になった場合、再度町田市民病院に入院したいと思うか」の質問があります。82.4%の人が「入院したいと思う」と答えておられます。私たちはこの数字に勇気づけられました。さらに充実に向けて努力します。

『町田市民病院 アートワーク計画』

院内では、4階以上の階に、多摩美術大学・東京造形大学・桜美林大学・玉川大学の学生が制作した絵画やオブジェなどの作品124点が展示されています。

これらは病院内に心癒される空間を創造し、「魅力ある病院づくり」と「生活とアートの共存」を現実のものとなりました。

今後も大学と協力し、より魅力ある空間を創りに努めていきます。これからも「町田市民病院アートワーク計画」にご期待下さい。



第三回『町田市病院事業 運営評価委員会』開催

第三回となる町田市病院事業運営評価委員会が、3月4日に開催されました。病院からは、町田市民病院の2009年度決算見込や2010年度の事業計画について報告をしました。委員からは、在院日数の短縮が病床利用率の低下につながっているというご指摘や、深夜帯の一次救急、市民病院と診療所の役割分担、業務委託の管理体制などについてご意見をいただきました。



委員の皆さん 赤星透(北里大学病院副院長)、木藤一郎(旭町二丁目町内会長)、品川直介(町田市医師会副会長)、増岡和子(病院ボランティア)、山内芳(税理士) 50音順、敬称略

町田市民バス まちっこ

「市民病院正門」発時刻表

「市民病院正門」乗車

小田急線/横浜線 のりかえ 『町田バスセンター』行 オレンジ色のバス

8:35	9:20	10:05	10:50	11:35	12:20
14:00	14:45	15:35	16:25	17:15	18:05

相原方面 きみどり色のバス

10:34	14:39	17:39
-------	-------	-------

横浜線 のりかえ 『町田ターミナル』行 きみどり色のバス

9:30	12:47	16:57
------	-------	-------